

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第4回高松市創造都市推進懇談会
開催日時	平成25年5月24日(金) 18時30分～20時40分
開催場所	高松市美術館1階喫茶室
議 題	(1) 第5回審議会の報告 (2) 推進ビジョン主なプロジェクトについて ・「交流空間」 ・「食」
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	人見会長，甘利副会長，鎌田委員，香西委員，中田委員，中村委員，長田委員，西成委員，花澤委員，英委員，広野委員，山家委員
事務局	宮武，松本，秋山，藤本，藤田，小河，永正，東原，佐々木，佐野，溝渕，永木
傍聴者	1人 (定員5人)
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過および審議結果

(1) 第5回審議会の報告
資料について事務局から説明

(2) ロゴの提案について
(会長)
香西委員から，提案がある。
(委員)
ロゴがあったほうがブランドとして捉えてもらえやすいと思い何パターンか作ってみた。10種類ほど作り，身近な人たちに意見をもらって，ブラッシュアップしたものを持ってきた。インパクトに残るロゴにしたい。ホームページや映像やポスターなど様々な場面で使えるよう，動きのあるアニメーションをつけられるような形で作成してみた。
(会長)
まずイメージ戦略的なロゴマークについてU-40で議論していくことについてどう思うか？イメージ戦略として，ロゴや映像の作成も案が出ている。何か意見があれば。
(委員)
今後「創造都市」を発表していくときに，ロゴは必要となるだろうと思う。それをU-40で考えるべきかどうかの結論はすぐ出せない。
ビジョン骨子も読めば読むほど分からなくなってくる。スティーブジョブズも言っているように，かたちにしないと分からないものもある。作り方のプロセスはともかく，ロゴも映像もあっていいものだと思う。

審議経過および審議結果

(委員)

ロゴマークなどを出すのは美術館カフェのとき？制作については後々決めていくことだし、審議会との刷り合わせも必要。

(委員)

分かりやすく伝えるためにロゴは必要だと思う。個人的にロゴの作成や映像の話が知らないところで進んでいるので、メーリングリストなどを活用して、委員全員が情報共有した上で進めてほしい。

(委員)

ロゴや映像などで視覚的に分かりやすいものを作ることに賛成。会議に参加しているのに知らないところで何か話が進んで成果物的なものまでできていることに違和感がある。

(会長)

オープンであることと、発言の機会の平等は必要。

(委員)

ロゴを作ることも賛成だし、子どもから高齢者までみんなに分かりやすい映像を作成することも賛成。

(委員)

ロゴや映像を作ることに賛成。ただ、市民の人たちがロゴをみて、「これなに？」ってなったときに、分かりやすく説明できないとだめ。

(委員)

ロゴと映像があればいいものだと思う。創造都市自体説明し辛いものだが、ロゴを見たら、こういうものだよと分かりやすいものになればいいと思う。

(委員)

どうやって市民に「創造都市」を認識してもらうかが大切。ロゴのデザインはワクワクするもので、いいと思う。ただデザインの決め方などをどうするか公募するのかなどは今後決めていかななくてはならないだろう。

(会長)

今回は香西委員からのロゴ提案だったが、今後、自分たちの活動しているフィールドで、創造都市のプラットフォームに乗せたいと思う事例が出てくると思う。そのときにこのプラットフォームをどう活用していくか？

(委員)

役所の中の決め方等制約があれば教えてほしい。

(局長)

一般的な役所のスキームでいうと、原則競争で、価格や内容をみる。審査委員会を設置し、公募して決める。

多くの自治体がやっているやり方では、無難なものしか出ないというイメージはある。

(会長)

高松市としてロゴを作ろうという意思があるか、また予算の問題もあると思うが、どちらにしてもU-40の中だけで話すのは不公平感がある。ロゴや映像があった方がよいという意思は確認できたので、どういうアプローチをしてどう進めていくかは、今後議論していくこととする。

(3) 「創造都市推進ビジョン」主なプロジェクトについて～食～ 審議会の報告について事務局から説明

(会長)

今後は、懇談会で2テーマずつ各プロジェクトのアイデア出しをして、

それをもって審議会にかけていくという流れになる。まず「食」をテーマに議論したい。創造都市高松が食の分野で打ち出そうとする目指すべき姿や食の現状の課題は？

(委員)

食の分野もテーマが幅広くて、生産して、消費者が手にして食べるまですべてが対象となる。ビジョン骨子を見ると、農業についての視点多い。

(会長)

食そのものが創造的人材を育む基盤だと思う。ジャンクフードばかり食べている子どもが創造的人材にはなかなかならない。ちゃんとした家庭料理を食べて育つことが大切。そういう視点がビジョン骨子には抜けているのでは。

創造的人材の創出という観点の前提として自分に対して自信をもつ自己肯定感を育む行為として、料理がある。そういう視点があれば？

(委員)

自分たち農業者としては、田植え体験や稲刈り体験などで、土に触れてほしいという思いがある。

作付けから始まって自分が育てたものを収穫して、プロの料理人と一緒に調理するところまでできると最高かな。収穫体験まではよくあるが、プラス調理があれば食に対する創造性が豊かになると思う。でも買った野菜で調理するのはあまり意味がない。

(委員)

自分は幼少のころの妙な体験が尾を引いて、音楽とカラオケはNGだけど、料理をして食べてもらうのは結構好きで、自分の中で唯一のクリエイティビティなものだと思っている。それを通じた広がりもあり、交流空間にもつながるなと感じている。調理はひとつのクリエイティビティだ。食＝地産地消で農に偏りがちだけど、最終的なサービスに目を向ける、6次産業化にもつながる話だと思うが、そのエッセンスがあってもよいのでは。「食べる」ことを視野に入れる。

(会長)

創造都市のひとつのゴールとしてある経済や雇用の創出を視野に入れるとすれば、現状の農業は儲かっているの？

(委員)

儲かっている人は儲かっている。創造性があれば儲かると思う。昔は農業者が自分で売る値段を決められなかった。いまはJAを通さなくても自分の力で販売できるので、自分でブランド化している人がたくさんいる。

地元の美味しい野菜が地元の人に入らないまま都会へ流れている。都会のバイヤーさんは目をつけるのが早いので、例えば、東京の有名なAWキッチンの方もしょっちゅうこっちにきて、香川のアスパラやいちごをひっばっていつている。

(会長)

食から住環境にまで踏み込めないかと考えている。例えば、キッチンが家の中心にある家と、コンロがひとつだけぽこっとある家では、食に対する充実度が違ってくる。食に携わる人や食の切り口が、ライフスタイルの提案につながるのでは。

(委員)

中田委員と昔から知り合いで、奥さんともお話したことがあるが、奥さんに、実は野菜には黒色が一番映えるんですよという話をしたときに、野菜を漆器に飾って展示をしてくれて、それが好評だったそう。

食卓が華やかになれば食欲が増すと思う。食卓の見せ方を提案することから住環境にもつながるし、いろんな分野とも手が組めると思う。

(委員)

食と器ってすごく近いもの。最近の若い人はコンロすらなくて、電子レンジだけという人もいる。コンビニ弁当をそのまま食べてそのまま捨てる、それってすごく淋しいこと。たとえば器を変える、盛り付けを変える、それだけで、何倍も食べ物の価値が上がる。最終的にはそれがライフスタイルの提案につながる。

(委員)

分かってはいるけど、仕事が忙しいとどうしても優先順位が低くなる。

(会長)

その話は「健康」にもつながると思うが。

(委員)

コミュニケーションというところで、スポーツ関係者はとにかく飲み会好きが多くて、スポーツはやって終わりじゃなくて、その話をしに飲みに行くというところがコミュニケーションになっている。そこが「食」のすごいところ。例えばお土産のお菓子ひとつで会話が広がるとか、飲食のある会議の話が弾むとか、そういう観点から「食」を考えてみては。

(委員)

いま「コショク」が問題になっている。「コショク」とは「単品しか食べない個食」と「ひとりで食べる孤独の孤食」両方の意味がある。子どもたちには楽しい食卓を経験してほしい。

(委員)

一人暮らしのお年寄りも誰かのごはんを食べたいと思っている。午前中のスポーツ教室にお弁当がつくのとつかないのだから参加者が倍くらい違う。「心の健康」と「食」もつながっているのでは。

(会長)

「アート」と「食」の観点は？

(委員)

島キッチンを作った安部良さんという建築家さんの東京渋谷にあるご自宅は、四角い家の一辺が全部キッチンですごくかっこいい。彼が提案したのが「食のプラットホーム島キッチン」。食は建物の中で一番重要な場所という意識があった上で、地域のコミュニティの中に、食が中心となった場所がほしいという提案でできた。

地元の人が作った米・野菜・魚を使って、地元のお母さんたちが調理する。調理は普通に作ると家庭料理になるから、プロの力を借りている。地元のおばちゃん・建築家・プロの料理人、いろんな人のアイデアが重なって成り立っているところ。それがいま交流空間に発展している。豊島にあるため営業的にはかなり厳しいが、ちょっとうまくいっている奇跡的な場所。レストランとしては普通に見えるけど、いろんなバランスで成り立っている。儲かればいいというのではなくて、平均年齢70歳前半のおばちゃんたちが無理なく働ける環境でやるのも難しいところ。

(会長)

島キッチンに音楽はある？

(委員)

島キッチン内の音楽は、真ん中のテラスで演奏したものをBGMで流している。生演奏が理想だけど店の隣がおばあちゃん家でうるさい音楽は流せない。

(委員)

野菜ソムリエコミュニティ香川でやっている取組みで、聞く音楽で味覚がどう変わるかというのがある。例えば、ロックを聴きながら食べると「イチゴがとげとげになった」とか。子どもの発想はおもしろい。食事の音楽って大事。

(委員)

取組イメージのところは農に偏っているところに、いま出た話のエッセンスを入れて半分くらい入れ替えてもいいかも。

(委員)

数日前まで上海に行っていたが、上海の人は給料の半分以上を食事に費やす。会社で提供される昼食が不味いとストライキを起こすほど食にこだわりがある。香川の人はずどんをパパッと食べて終わらす感じ。

(委員)

ライフスタイルや食にかける時間、食に向き合う時間も大事になってくる。

(委員)

糖尿病率が高い、野菜を食べない、菓子パンの消費率も高いという記事が出ていた。でもそれもプライドかも。

(会長)

海外のスナック工場閉鎖の話。厚生労働省がある調味料を使用禁止したことで生産ができなくなったが、工場の雇用者で成り立っていたまちだったので、失業者だらけになってしまった。

国としては不要な病気を発生させず将来的な医療費が増えるのを防げたが、地域の雇用が失われてしまった。食品業界の利益と健康志向のバランスの問題もある。

(委員)

食をアーティスティックに考えてみたらどうか。今日は栄養摂取の食事、今日は娯楽の食事などと考えたらおもしろいのでは。「アーティスティックな食事」という視点。糖尿病などを気にするのは厚労省に任せて、創造都市として議論するものじゃない。

(委員)

アコーディオンの cobaさんは大好きなイタリアの料理にインスパイアされたアルバムを作っている。若槻千夏はメロンパンを1個5カロリーだと思って食べることで太らないように脳をコントロールしているという話がある。

(4) 「創造都市推進ビジョン」主なプロジェクトについて～交流空間～

(会長)

創造都市における交流空間のあり方について議論したい。

(委員)

交流空間というとテーマが広いと思うが、フリートークということなら、ブラッドフォードというまちの都市再生動画をみてほしい。

～動画再生～

市民に分かりやすい動画をみせたことで、投資をしてもいいよという人がでてきた。都市のマスタープランが市民に広がっている。実際今年の3月に行ってみると、2006年のプラン発表から7年後、実際に計画が動いていたことに感動した。都市を変えていくことはものすごく時間がかかることだが、少しずつでも同じ方向を見て進んでいきたいし、国や県やいろんなところを巻き込んでこんなまちになったらいいなという夢を描きたい。映像を作る際に都市計画の視点ももりこんでほしい。

(会長)

ある創造都市の本の中に、「創造的人材は創造的人材がいるところに移る。交流空間を失敗すると創造的人材が流出してしまうし、創造都市が成り立たなくなる。なおかつ創造的人材が経済を牽引していくとなると、都市間で創造的人材の獲得競争が起こる。」とある。

(委員)

公共空間をどう変えていくか。そのワーキンググループを市内に作ってほしい。港廻りはほとんど県の管轄なので、県と市と一緒に考えてほしい。

(会長)

取組イメージの「高松駅からまちなかへつながる観光ルートの開発」はどういうもの？

(委員)

観光もひとつの交流。高松駅を降りてどこにどうやっていく？金沢にはふらっと立ち寄れる環境が整っている。いろんな目的の人に対応できる感じ。21世紀美術館には無料で立ち寄れるスペースが多い。高松には、ふらっと立ち寄れるところが少ないからそういう視点でまちづくりをしては？観光の戦略として、高松駅を降り立った人がどういう手段でどこに行くかを考えるべき。

(会長)

取組イメージの中の「フェリー乗り場やヨットハーバー、サンポートのあり方」について検討している会はある？

(委員)

県に検討会はあるがそれぞれが単独で議論していて一体感がない。

(会長)

個別の理想論を実現するためには、議論の枠組みを変えたり、機構のあり方を変えないと絵に描いた餅のまま。

(委員)

地元の牟礼町は地元愛が強い。石屋という産業があり、3世代家族が多い。祖父母から地元の歴史を昔から聞いて育っており、自然とまちを自慢したくなる。生まれて死ぬまで同じ場所で住む人が少なくなっている。県外に行ったときに自分のまちを自慢できるような人を増やしたい。

ここにいる人たちは、地域への思いや愛着があり、特技があり、人脈もある人だと思う。高松は気候もよく住みやすいからこそあまり不満もないし、まちへの興味がないという人が多い。何かまちに興味をもたすような仕掛けづくり・空間を作ってみたい。

自分の会社の従業員で、いまの時期だと平日仕事をして土日に田植えをしている人がいてしんどそう。例えば、米作りをしたい人と人手不足で困っている農家をつなげて稲作ボランティアを募る。田んぼがあるだけで大変で、自分の代がきたら宅地にしたいという農家を助ける。それで田園風景も残せるかも。

(会長)

ほかに何かあれば？交流空間は議論しづらい内容だった？

(委員)

目的と取組イメージがミスマッチでは？

(会長)

親しみやすい水辺空間なんて、議論の枠組みを変えたりしないと一生無理では。

(委員)

脱線するが、沖縄の人たちが浜辺でバーベキューをしていたのがうらやましかった。サンポートで会社帰りにバーベキューしたい。防災用ベンチをひっくり返すとコンロになったり。自動販売機でお肉が買えたり地産地消の野菜があったりすれば楽しそう。大的場の跡地とかもったいない。

(委員)

港での買い食いを禁止されている。日本中の港が港湾法で規制されている。海外だと港でビールを飲んで、たこの天ぷらを食べて、港を楽しんでいる。

(会長)

移動空間と交流空間の見直しは？

(委員)

道路でバーベキューとか，なにかイベントしますよっていうのは？丸亀町のドーム広場は公共性もあってよい。公共性のあるスペースを使ってこういうことをやりたいと言うことで，ちょっとずつ規制緩和してほしい。

(会長)

取組イメージの中に，交流空間を創出したり維持整備するコミュニティの育成というのがあってもいいかも。

(委員)

県・市・警察・消防も巻き込む話ではあるが，市が立法的なものや特区申請などで，交流空間としてのハードルに対し，市として努力する部分があってもいいのでは。

(参事)

交流する仕掛けやこんな交流があれば楽しいかもというのであれば，アイデアを出してほしい。

(4) 異業種交流空間創出事業

事務局説明

(会長)

異業種交流空間創出事業のプレゼンテーションと創造都市推進の原動力となるような団体を作る法人化について議論したい。

(委員)

～プレゼンテーション～

(委員)

～プレゼンテーション～

(委員)

せっかくなら美術館改修を見据えた社会実験にしたい。創造都市として，美術館をどう交流空間にしていくかは大事な問題なので，ここで興味のある方がいれば，一緒に考えて，市に提案したい。

(会長)

U-40を中心として，創造都市推進のエンジンとなる団体の設立に賛同いただけるか確認して詳細は別の席で議論したい。

(参事)

個人的な悩みで，みなさんにアイデアをもらいたいという内容で，「交流空間の仕組み化」について考えている。

人と人をつないで何か問題が解決したり，もっと創造的な何かができれば楽しそうだけど，仕組み化するのが難しい。「会う」だと，WEB上で会うかリアルに会うかの2通り。サイトがあって，スキルがあってやる気のある人が登録して，運営管理者がチェックして，また問題のある人が問題登録することで，アイデアのある登録者が解決する感じ。

例1：行政がもつ資源，使うことができる公共空間なども情報として載せて，活用できるアイデアを求める。

例2：自分や地域の抱える問題を投稿して，解決策を募る。

例3：創造的人材バンク

交流できる空間をどう仕組み化するか議論してほしい。

(委員)

県や市で，スポーツバンクというのがある。登録している指導者とイベントをやりたい人などをつなぐもの。課題をあげると，まずスポーツバン

クの存在を知らない。人間関係が問題になるので、結局リアルに会わないと分からないところが多い。あとは情報のリアルタイム性が問題。facebookがこれの理想系かなと思う。

個人的に20代女性としては、登録というのが固いイメージ。ゆるさがほしい。

まず知ってもらえるところから始めるべきでは。一気に交流人口を増やそうとせず、ロコミの信憑性とかも利用しながらやっていくのもいいかも。

(会長)

法人化の中の見える化につながるかなと思っている。

課題の発見ができる人材こそ創造的人材だ。

(参事)

WEBに偏ったものでなくてもよくて、リアルも大事にしたい。四番丁スクエアみたいにどこからでもアクセスできる場所で、夜行ったらいつでも誰かが誰かとしゃべっているイメージ。

(会長)

時間もないので、続きは2次会で。宮武局長から2点お知らせ。

(局長)

美術館改修について補足説明。

ロゴのスキームについて細かく説明。

(事務局)

スケジュールについて説明。次回は6月下旬最終週あたりで日程調整メールする。

以上